

動物愛護・適正飼養分野における愛玩動物看護師の登用強化に向けた調査報告 (令和 5 年度)

ヒアリング概要

ヒアリング目的	愛玩動物看護師の就業現場となりうる業界について、 <u>愛玩動物看護師の雇用・業務上のニーズや課題を把握し、今後の施策の検討材料とする</u>
主なヒアリング項目	<ul style="list-style-type: none"> ■ インタビュー対象者の基本情報 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 職種、業務内容 ➢ 資格取得による環境変化 ■ 雇用・処遇状況 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 現在の獣医師・動物看護師の雇用人数 ➢ 動物看護師の業務内容 ➢ 雇用・処遇条件 ■ 愛玩動物看護師が担う役割 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 愛玩動物看護師の取得後の業務変化 ➢ 愛玩動物看護師として今後挑戦してみたい領域 ■ 愛玩動物看護師の雇用ニーズ・課題 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 愛玩動物看護師の雇用ニーズ、期待 ➢ 愛玩動物看護師の活躍の幅を広げていくため課題 ➢ 愛玩動物看護師として働き続ける難しさ、必要とする支援
ヒアリング対象	<p>資格取得による業務拡大等調査として愛玩動物看護師を雇用している 6 企業等、動物愛護管理行政での登用可能性調査として 4 地方公共団体をヒアリング先として選定</p> <p style="text-align: center;">資格取得による業務拡大等調査</p> <p>愛玩動物看護師資格取得者が<u>現場で担っている業務や登用に当たっての需要や課題等</u>について、愛玩動物看護師を雇用している以下 6 分野に属する企業等（各 1 団体ずつ）にヒアリングを実施 <u>研究機関、ペット同伴ホテル、ペットショップ、教育機関、ペット介護、往診専門動物病院</u></p> <p style="text-align: center;">動物愛護管理行政での登用可能性調査</p> <p>地方公共団体において愛玩動物看護師が担える（又は現に担っている）役割、具体的には<u>動物愛護管理部門をはじめ、災害時対応等を含め</u>どういったポストで愛玩動物看護師の<u>活躍の可能性</u>があるのか等について、4地方公共団体にヒアリングを実施</p>

民間企業では愛玩動物看護師の雇用や資格手当の付与等が進んでいる。
一方で、学生や一般に対する周知不足が課題としてあげられる。

ヒアリング調査結果概要（民間企業）

	研究機関	ペット同伴ホテル	ペットショップ	教育機関	ペット介護	往診専門動物病院
雇用人数 (ヒアリング時点)	愛玩動物看護師 5名	愛玩動物看護師 1名	愛玩動物看護師 6名	愛玩動物看護師 5名（常勤講師）	愛玩動物看護師 8名	愛玩動物看護師 3名
募集形態	正社員	正社員	正社員 (資格保持必須)	正社員	5名正社員、3名契 約社員・アルバイト	正社員 (資格保持必須)
待遇	給与体系は一律であり 資格手当等はない	給与体系は一律であり 資格手当等はない	資格手当：2万円/月	来年度から 基本給 に上乘せ予定	■資格手当：社員は3,000円 /月、アルバイトは時給に+10円 ■試験合格で祝金3万円	資格手当：1万円/月
愛玩動物看護師の業務	動物病院への営業、 薬・ワクチンの開発	接客、フロント業務、 食事提供	飼主向け・社内向け 病院での診療補助	専門学校での教員、 飼育動物の診療補助	老犬介護業務での診 療補助、静脈注射等	往診診療での獣医 師補助
資格取得による 業務変化	同資格を持った顧客 と同じ目線での営業 活動ができる	特になし	採血等診療補助の 実施、 獣医師の業 務軽減	特になし	注射対応	特になし
愛玩動物看護師への期待	資格取得で学んだ 知識の横展開・営 業活動での活用	愛玩動物看護師特 有業務などの 差別 化 を今後整理したい	災害時対応、ペット ショップでの飼養管 理適正化	国家資格保有者と して動物に対する責 任感を持ってほしい	犬の代弁者となり、 飼い主とコミュニケー ションを取ってほしい	災害時対応、顧客 との対話のための コ ミュニケーション力
今後の課題	学生に対する 愛玩 動物看護師の活躍 実績周知が不足	資格手当、資格取 得に向けた講習会や 受験料、登録料等 の 福利厚生 の充実	飼主の愛玩動物看 護師資格の認知が 不足 しており、飼主 面前で採血などを行 いにくい	社会からの認知度 が足りていない、臨 床経験がない まま現 場に出ることを懸念	現任者の愛玩動物 看護師取得は容易 でなく、経験のある 動物看護師が国家 資格を取得できない ことを懸念	獣医師がいるから存 在できる資格であり、 愛玩動物看護師自 身の業務生産性を 高める積極的姿勢 が重要

地方公共団体での雇用状況は慎重傾向にあり、特に愛玩動物看護師の異動先が限定されることで活躍の場が制限されてしまうことが課題としてあげられる。

ヒアリング調査結果概要（地方公共団体）

	A 県	B 県	C 市	D 市
雇用状況	愛玩動物看護師1名	愛玩動物看護師0名	愛玩動物看護師0名 (獣医師を雇用)	旧動物看護師資格保有者1名
募集形態	会計年度任用職員			
	資格保持優遇	資格保持必須	動物病院での勤務経験必須	資格保持優遇
待遇	行政職俸給表を適用。業務特殊性を考慮し給与を決定。	行政職俸給表を適用。准看護師の給与を参考に、業務特殊性を考慮して給与を設定。	医療職俸給表を適用。診療放射線技師等と同等の設定。	会計年度任用職員としての給与条件で募集中。
愛玩動物看護師の業務	飼養管理、診療時の保定、譲渡犬猫のマッチング	県民相談対応、ワクチン接種、MC装着等の獣医療の補助、愛護啓発活動	保護猫の避妊去勢手術補助、市民ボランティアの相談対応(想定)	獣医師補助、保護動物の飼養管理、市民対応
資格取得による業務変化	獣医師診療時の投薬準備、採血	該当者無し	該当者無し	獣医師診療時の投薬準備
今後の課題	獣医師に比べ異動先が限定される。応募者が少なく採用が難航し愛玩動物看護師数が充足されない	獣医師に比べ異動先が限定される。国や他行政での採用実績が少なく、民間企業に比べ給与が低く設定されるため、採用が難航している	獣医師に比べ異動先が限定される。会計年度任用職員は自らの意思で責任を持って診療の判断をすることができないため、正規職員(獣医師)の帯同が必要となる	獣医師に比べ異動先が限定されてしまうことで、職員のキャリア形成及び育成のあり方について懸念される

地方公共団体で働く愛玩動物看護師は、専門知識を活かした市民対応等も期待される。

愛玩動物看護師に期待すること

A
県

- **災害発生時**の対応
- 学校へ赴き、犬猫との関わり方や適正飼養を通じた命の大切さを学習する時間で、愛玩動物看護師ならではの専門知識で活躍をしてもらいたい

B
県

- センターでの「**命の教室**」等、研修対応
- 市民からの相談対応

C
市

- 小中学校向けの愛護教室に愛玩動物看護師でチームを組み対応してもらいたい
- 飼主のいない猫に餌やりをする方へのアドバイス、しつけの助言などをきめ細やかに対応してもらいたい

D
市

- 専門知識を活かして市民に適正飼養の説明をしてもらいたい
- 事務職と獣医師の中間立ち位置として、飼主により効果的な説明ができると考えている

愛玩動物看護師には、災害時に関係団体と連携し、被災動物のケア等に従事することが期待される。

災害対応に関する意見

A
県

- 災害発生時のための講習会、研修会を開催している。
- 県内唯一の愛玩動物看護師養成学校と連携し、学生にも研修に参加してもらっている。
- 愛玩動物看護師として災害時に対応できるよう、獣医師指導のもと採血等の処置訓練をしている。
- 実際に避難所を開設する主体は市町村となるので、有事の際いかに市町村を動かせるかについての検討をしている。
- 昨年大雨被害で避難所を設置したケースがあった。同行避難所の数が少ないことが後から判明したため、研修会を通じ、市町村を巻き込んで改善策を検討したい。

B
県

- 現状では会計年度任用職員としての採用を予定しているため、愛玩動物看護師を災害現場へ派遣することは検討していない。
- 災害時対応ガイドラインは策定済み。市町村に同行避難所の設置を呼び掛けている。
- 県内の動物愛護団体で愛玩動物看護師が対応している方々がいるが、具体的活動内容は把握していない。

C
市

- 獣医師会と災害時に関する協定を結んでいるがあくまで治療面になるため、被災した動物の健康チェック等、獣医師のみでは手が回らない部分を愛玩動物看護師に担ってもらうことも一つと考える。
- 行政獣医師は避難民同士の動物トラブル対応に長けていると考える。臨床獣医師とは異なる視点を愛玩動物看護師に知ってほしい。
- 防災マニュアルは定期的に見直しているが、動物に関する事項は具体まで落とし込めていないため、今後検討したい。
- 台風で避難所を開設した際、犬猫をケージに入れず連れてくる飼主が多かったため、行政としての周知が必要と感じた。

D
市

- 災害が比較的少ない市であるが、能登地震を受け研修を受講した。愛護センターの役割は大きいと考えているが、巡回は獣医師だけでは対応できないため愛玩動物看護師の補助を期待している。
- 県内には動物関係の学校もなく協力体制が敷けない。災害発生時は行政として対応する必要がある。

小学校等での動物のいのちに関する出張講座が実施されている。
愛玩動物看護師にも専門知識を活かした指導等が期待される。

小学校等や市民への「命の大切さ」を学ぶ機会への対応

A 県

- 学校の総合学習等で命に関わる職業の学習を含めて、犬猫との関わり方、適正飼養を通じて命の大切さを学習する教室を動物愛護センターで開催している。
- 県内小中学校や集会所に訪問し、研修会を実施している
- 愛玩動物看護師に今後役割を担っていただきたいと考えている

B 県

- 主に小学校へセンター職員が出向き、動物を介して命の大切さを学ぶ出前講座を開催している
- センターでの学校の見学受入れも検討中
- 愛玩動物看護師を中心に、専門知識を活かした指導や講義を期待している

C 市

- 関係団体と市で協定を結び、団体が放課後の子供教室に訪問する際にセンター職員が同行し講義をしている

D 市

- 現センターは稼働したばかりであり、実施していない
- 今までは学校の理科教員等が学校飼育動物について生徒へ説明をしていたと思うが、そのような先生が減ってきていること、動物を飼育している学校がほとんどないのが現状